



2月23日・東京・ダ1600m戦のパドックにて

小島友実の あの馬の **STORY**



サウンドトラック

サウンドトラックは以前グリーンファームに所属し、浦和のオーバルズプリントを勝つなど活躍したアースサウンドの3番仔。尾関知人調教師は2馬仔のガーデンサークルで管理しています。

「中間育成期はちゃんと必要な震固気もおりましたが、騎乗の馴致を始めてからは人間の指示に従い、順調に進みました」尾閥調教師が、うつ語りよく「育成は順調に進み、昨年7月に美浦トレーニング入厩。8月にグート試験に合格したものの、一度放牧に出されてこまよ。

「大型馬で脚元に吸い込まれるか」があ
り、今は時間をどうした方が良いか判断
せせて頂きました。しっかり間を開けたい
と、10月末に美浦へ戻ってきた時は随
分脚元も良くなつた印象でしたね」

調教での動きや血統面からマークを
と判断され、12月14日の中山ターミナル
競馬でデビュー。結果は着でした。

「スタートで寄り切る不利があったのが痛かったです。それでも最後まで競馬を上からこなしながら伸びてました

「さへといたゞくしれりてして」と
た。テムー「騎士も「いれかの歎わいで、
きもつた感触がある」と語つてござました
す。器用さがあつたと印象なつたので、
広い東京のマスターのマースが良じでたの
うとい難く、戦田は東京のダーティ600
みたい何かおもつた。

その戦田ひなたの1月23日の東京戦でかわづじゅりゅうは疲れの身を感じながらのプレーがつづき配がまか。

「大外枠からのスタートで終始、外を走る形。直線までモタモタして、いたもののスイッチが入ってからはしっかりと脚を使つ

て着て伸びました。2戦目で競馬

「質の高さを感じたレースでした」
3戦目は続戦となり、3月14日の中京

ダーティー400 メルで出走しました。

が一番の長所だと感じます。現状では東京のダーティー1600ベルがベストだと思つので、2回続々東京開催でなんとか結果がでれば良いなと思つています」

思えばガーデンワールドが初勝利を挙げたのは3歳9月の門別戦でした。

「（ガーデンワールド）」
（同）

「九十九」、「一五一」、「初勝利」と時間
を要しましたが、その後に「勝つクラスを
勝つてしまはからね。サウンドドリックは
早く結果をだしたいところですが、無理
強いと逆効果にならうな気性面
を持ち合わせてます。でもかうじの馬の
能力を信じて、馬体が成長し、気持ちよ
く走れる状態になれば、必ず結果が伴
へと思ってしまいます」

「血統的なイメージがつむぎ大人しく扱いやすくなります。担当者に聞いたり、頭についたの無口黙絡から認用にすり抜けた時があります。田が離せない」と語っていました(笑)。まだ幼い面があつまわね」と教えてくれました。

「これだけ良い馬体を持ったのに血統背景も素晴らしい、私自身も凄く期待している馬です。まずは田先の1勝を挙げる事が大事なのは承知していますが、先々駆けなくていい馬だと想います。無理をさせない中で初勝利をマークでき

るより、全力で頑張つてしまひるので、応援宜しくお願ひ致し候す」

サウンドマークの馬体は素人目で見ても、本当に雄大で素晴らしいですね。そのボテンシャルが花開き、活躍する日を楽しみに待ちたいですね。

(4月14日 電話取材)

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKIET「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材を行っている。